

NTT がデータセンターを面積ベースで 2 割拡大

～法人のインターネット利用増に対応した収容能力拡大によりグローバルリーダーの評価を獲得～

NTT は、今後、法人のお客さまおよびハイパースケーラー向けのフルスタック ICT サービスを拡販するため、グローバルデータセンターのサーバールーム面積を約 2 割拡大します。また、NTT は、IDC MarketScape レポートにおける「世界規模のデータセンターコロケーションおよび相互接続サービス 2021 年度ベンダー評価」^{*1}において、グローバルリーダーのうちの 1 社に選ばれました。

世界各地域におけるデータセンターの拡大方針

NTT は、北米、EMEA（欧州、中東、アフリカ地域）、アジア、インドでデータセンターを運用しています。北米バージニア、ロンドン、シンガポール、東京など主要な市場におけるデータセンター間を、ネットワークにて相互接続すると共に、各地域におけるデータセンターサービスの収容能力を以下のとおり拡大しています。

北米： 2020 年から 2021 年にかけて、バージニア州アッシュバーンにおけるデータセンター拡張に加え、オレゴン州のヒルズボロ、カリフォルニア州のサンタクララ、イリノイ州のシカゴに 3 つのデータセンターを新設しました。47 エーカー（約 190,000m²）のヒルズボロのデータセンターは、終局 5 つのデータセンターで構成され、IT 機器向け総電力提供可能容量（以下、IT 電力容量）126 メガワットを供給する予定です。加えて、NTT の日米間海底ケーブル「PC-1」を活用することで、ヒルズボロと東京間の太平洋横断のネットワークを提供します。

また、アリゾナ州フェニックスにおいても、2022 年初頭データセンターを新設する予定です。フェニックスデータセンターは、IT 電力容量 36 メガワットを供給するデータセンターを終局 7 棟建設し、合計で IT 電力容量 240 メガワットを供給する予定です。

EMEA： オランダのアムステルダムやドイツのフランクフルトでデータセンターを運営しており、ドイツにおける市場シェアは 1 位です。英国では、新たにロンドン 1 データセンターを 2020 年 12 月に開設しました。収容能力を現在の 2 倍以上に向上させ、英国の金融サービスやメディア、ゲーム産業を支えています。また、NTT が提供するロンドンエリアにある全ての NTT のデータセンターをつなぐ光ファイバーなどの敷設にも投資を行っています。

また、NTT は、今後 2 年で EMEA の 6 カ国、9 つの市場に新たに 13 のデータセンターを建設し、50,000m² のサーバールーム面積、IT 電力容量 115 メガワットを追加することで、EMEA における IT 電力容量を 40%以上拡大する予定です。

さらに、旺盛なデータセンター需要に応えるため、ウィーンやチューリッヒ、ロンドン、ドイツ各地での増床に加え、スペインのマドリドや南アフリカのヨハネスブルクにも相互接続可能なデータセンターを構築する予定です。

アジア（インド除く）：2021 年内までにインドネシア・ジャカルタの中心地から約 30km 離れたブカシに IT 電力容量 15 メガワットを供給するジャカルタ 3 データセンターを新設します。通信事業者としての強みを生かすことにより、本データセンターにおいてお客さまは、IXs（インターネット・エクスチェンジ）や ISPs（インターネット・サービスプロバイダー）との接続が容易になります。

また、マレーシアのサイバージャヤ 5 データセンターは、IT 電力容量 6.8 メガワットを供給し、今後、同キャンパス内にさらに同規模の拡大を予定しています。

日本では、2020 年 9 月に東京に IT 電力容量 21 メガワットを供給する東京第 11 データセンターを建設しました。

今後も、お客さまの旺盛な需要に応えるため、バンコク、大阪、ベトナム南部へのデータセンター拡張も検討中です。

インド：インドで初の大容量データセンター拠点であるムンバイ・チャンディバリキャンパスでは、ムンバイ 8 データセンターの営業開始により、IT 電力容量 85 メガワットを供給する予定です。

また、2022 年 1 月以降順次、ナビムンバイに 2 つのデータセンターのほか、チェンナイ、デリー（ノイダ）において、合計で 50,000m²のサーバールーム面積、IT 電力容量 133 メガワットの大規模データセンターを建設予定です。

インドの 10 のデータセンターは、2021 年にデータセンター間ネットワークで相互接続され、ムンバイとチェンナイでは、海底ケーブルの陸揚局建設も予定されています。これらにより、インドにおける No.1 の市場シェアをさらに拡大します。

データセンター間を相互接続するグローバルネットワーク

NTT は、収容能力の大幅な拡張を行っているデータセンターと Tier1 のグローバルネットワークサービスを組み合わせたインフラにより、フルスタックの ICT サービスの需要に応えます。

NTT は現在、シンガポール、マレーシア、インド（ムンバイ、チェンナイ）を接続する大容量の海底ケーブル「MIST」を建設中です。「MIST」ケーブルシステムは、11,000km の長さを有し、その長さはニューヨークから東京までの距離を超えるものです。2023 年中頃の竣工をめざしています。

また、1 つの物理ポートから複数の仮想ネットワーク経由で、セキュアにクラウドサービス事業者などに接続できる「Global Data Center Interconnect」(GDCI)^{*2}により、グローバル市場におけるネットワーク相互接続基盤を提供します。前述の海底ケーブルシステムの拡張は、GDCI の地域を超えたデータセンター間での相互接続の基盤として通信インフラを支える予定です。

森林正彰 President and Board Director of NTT Ltd. のコメント

「新型コロナウイルス感染拡大により、人々の生活様式が大きく変容しています。人々の生活の質は、基本的にはインフラに依存しています。この 18 か月で、NTT はデータセンター事業を 20%拡大し、20 以上の国・地域で、サーバールーム面積は 600,000m²以上に拡大します。NTT は、さらにデータセンターやネットワークサービス上の法人向けハイブリッドクラウド環境を最適化するために約 30 の「GDCI」の接続拠点をグローバルデータセンターに拡大します。NTT は既に IT 電力容量 300 メガワットの供給への拡大に向けてデータセンターの建設を開始しています。新たなデータセンターや、キャンパスの拡大、「MIST」海底ケーブルのような大容量ネットワークの完成により、NTT は世界中のお客さまの事業に貢献する『つながる未来』を築いていきます」

IDC の評価

米国 IDC 社が 2021 年 6 月に発行した、評価レポート「IDC MarketScape: 世界規模のデータセンターコロケーションおよび相互接続サービス 2021 年度ベンダー評価」において、NTT は法人のインターネット利用増に対応した収容能力拡大、総合的技術力、フルスタック ICT サービスの提供によりグローバルリーダーのポジションに位置付けられました。

※1 : IDC MarketScape: Worldwide Datacenter Colocation and Interconnection Services 2021 Vendor Assessment, June 2021

IDC MarketScape については以下 URL からダウンロードください（英語のみ）。

[A leader in worldwide colocation and interconnection services | Global Data Centers](#)

※2 : 「GDCI」は、日本のお客さま向けには、NTT コミュニケーションズ株式会社が提供する「Flexible InterConnect」(FIC) においてご利用いただけます。「FIC」は、企業のデータ利活用に必要なすべての機能を、ICT インフラも含めてワンストップで提供する「Smart Data Platform」におけるインターコネクト機能を担っています。

<https://fic.ntt.com/>